

# 熊本県における中学校総合体育大会の運営と課題について

## ～郡市運営からブロック運営の取組を通して～

熊本県中学校体育連盟・熊本県中学校体育研究会

板床 龍哉

### <提案趣旨>

昭和23年、中学校体育連盟が発足して以来、熊本県中学校総合体育大会を行ってきた。ここ数年、郡市毎に輪番制で開催してきたが、生徒の減少や市町村合併による中学校の統廃合、それに伴う保健体育担当者の減少等により、大会運営が難しくなってきた。そこで、数年の準備期間を経て本年度より県内を5つのブロックに分け、そのブロックで大会を運営する方法を取り入れた。1年目ということで大会前には見えなかった様々な課題が見つかり、今後それらを工夫、改善していくことが求められている。

### 1 はじめに

昨年度は熊本地震が発生し、甚大な被害を受けた。多くの学校が被災し、校舎や体育館が使えない状態が続くなか、全国より心のこもった激励のメッセージや物資等の提供を頂いたことに心から感謝している。4月14日に前震が発生し被害がでて、その片付けに取りかかったところに16日の本震が発生したことで、物心両面で大きなダメージを受けた。そんな時、全国から届いたメッセージにどれ程励まされたか計り知れない。

部活動では、入学式も終わり新入生が部活動の見学をし、2・3年生は県中学総体の予選となる郡市の中学総体に向け熱の入る練習をしている頃だった。家が倒壊し、学校の校舎や体育館も被害を受け、被害を免れた体育館は避難所になり、グラウンドには仮設テントが建てられた。郡市総体ができるのかと危ぶまれる状況のなか、期日を延期したり会場を別の場所に移したりして、できる限りの対応をして郡市の大会を開催した。県大会も同様に会場を変更するなどして開催した。本年度からは施設や保健体育担当者の数、郡市同士のつながりで、県を5つの地区に分け、その地区ごとに協力して県中学総体を開催した。本年度はその1年目ということもあり、沢山の課題も明らかになった。ここでは、大会開催の場所や施設、運営スタッフとなる保健体育担当者数、予算面を中心にそれらの課題を整理し、改善に向けた対応を考え、今後につながる発表にしたい。

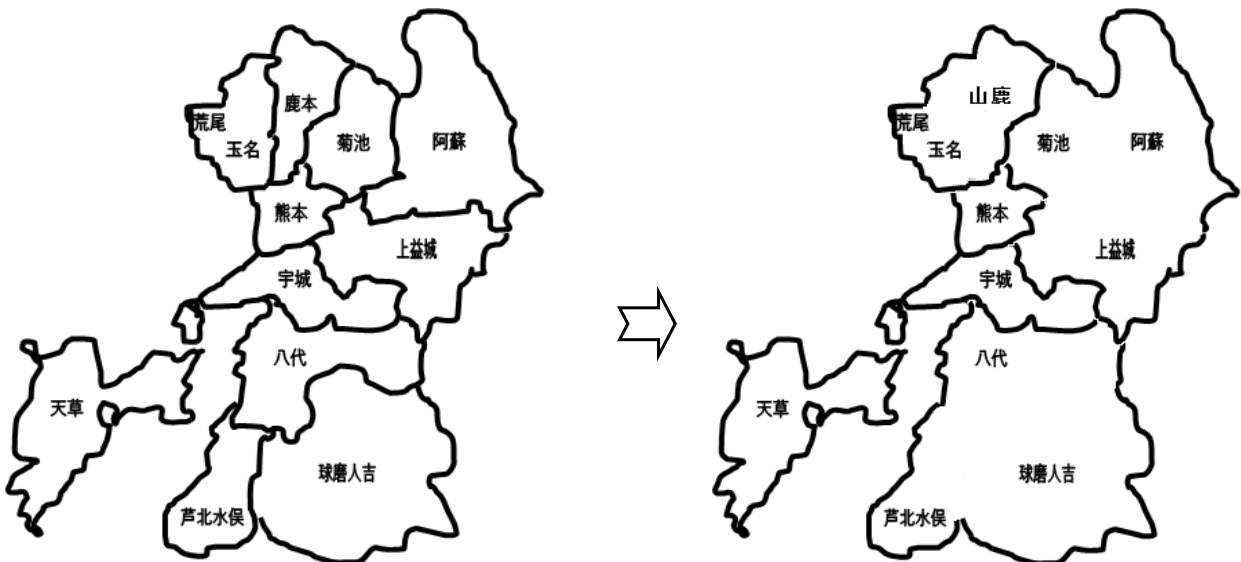
## 2 熊本県中学校体育連盟のこれまでとこれから

### (1) これまでの熊本県中体連の歴史

- 昭和23年 12月1日熊本県中学校体育連盟発足
- 昭和25年 第1回ジュニアレクリエーション大会開催
- 昭和27年 九州中体連発足・加盟
- 昭和28年 全国中体連発足・加盟
- 昭和33年 ジュニアレクリエーション大会を熊本県中体連大会に改称
- 昭和43年 郡市大会予選の後6ブロック大会を経て県央大会
- 昭和47年 ブロック制中止、郡市代表制
- 昭和49年 第1回熊本県中学校総合体育大会の開催
- 平成29年 5ブロック制による県大会の運営

昭和43年頃は郡市大会予選の後、6つのブロック大会を経て県央大会に出場という記録が残っている。その後昭和47年からブロック制を中止し各郡市代表制となった。大会開催地は、郡市持ち回り制になり平成28年度まで続いてきた。平成17年の第1回組織運営検討委員会で、郡市持ち回りでの大会運営は厳しくなってきたという意見が出され、平成18年からブロック運営が検討されるようになった。この10年間でも、ブロック運営案が白紙に戻ったり、競技別の固定運営案が出てきたりしたが、数年かけて検討された結果、29年度からのブロック運営になった。

### (2) ブロック運営による変化



図A < 11郡市による運営 >

図B < 5ブロックによる運営 >

#### ①会場・施設の変化

大会を開催する会場は健康面への配慮や安全面への対応から、年々良い会場への要望が高まってきている。屋外競技は広さだけでなくその質が要求され、人工芝や

オムニコートが選ばれるようになり、室内競技では空調設備の整った会場が求められるようになった。しかし、全郡市、全種目に要望に応じた施設がなく会場探しが難しくなってきた。昨年度までの郡市持ち回り運営では、図Aのように熊本県を11の郡市に分け各郡市毎が主管となり県中学総体を運営してきたが、本年度から図Bのように①荒尾玉名・山鹿②菊池・阿蘇・上益城③熊本市④宇城・天草⑤八代・人吉球磨・芦北水俣の5ブロックで運営することになり、競技会場となる施設が増え、より良い競技環境で大会を運営することができるようになった。

## ②学校数、体育担当者数の変化

平成28年度

	荒玉	山鹿	菊池	阿蘇	上益城	熊本	宇城	天草	八代	人球	芦水	計
学校数	16	6	12	12	8	43	11	23	18	12	8	169
担当数	25	11	34	14	13	118	22	25	27	20	10	319

ブロック編成後

	荒尾玉名 ・山鹿	菊池・阿蘇 ・上益城	熊本	宇城・天草	八代・人吉球磨 ・芦北水俣	計
学校数	22	30	43	31	38	164
担当数	42	60	120	45	58	325

生徒の減少に伴い学校の統廃合で保健体育担当の数が減少し、大会を運営することが困難になってきた。5ブロック編成前の状態であれば、本年度の芦北水俣は大会の計画、準備、運営を9人で行わなければならない1人で何役もの係を兼任しなければならなかった。ブロック運営することでスタッフも確保することができ、1人が何役も兼任しなくても良い状態になり、煩雑さが解消され運営もスムーズに行うことができた。

## ③予算面での変化

昨年度までは徴収していなかった参加料を本年度から徴収した。これまで運営郡市には、各市町村から大会運営費の約半分を負担してもらっていたが、現状として厳しい状況になったからである。参加料を徴収することで予算での課題を解消することができたが、空調設備の整ったより良い施設を会場にできるようになったことで、これまで以上に空調設備費がかかるようになりなった。

## 3 ブロック開催について

### (1) ブロック開催によるメリット

①開催地域が拡大されるため、施設確保がしやすくなる。

- ②開催地域が拡大されるため、学校数や保健体育担当者数も増え人的負担が軽減される。
- ③複数郡市による開催、参加料の徴収により、運営郡市への予算の負担軽減が見込まれる。など

## (2) ブロック開催により心配させるデメリット

- ①運営するローテーションが早くなる。
- ②運営郡市からの生徒やチームの出場枠の問題が出てくるのではないかな。
- ③開催ブロックの郡市は準備のために何度も会議を行うが、ブロック全地域から集まると範囲が広く時間や旅費の面からも会議が制限され十分な話し合いができないのではないかな。

上記のようにブロック開催をすることで幾つかのメリット、デメリットが考えられる。特にデメリットについてはその解消方法も検討されている。出場枠については、11の郡市代表は団体戦1チーム、個人戦2名が原則であるが、参加数の多い熊本市は団体戦2チーム、個人戦は4名になっている。トーナメント戦が公平でスムーズに進行できるように、16チームや32名になるように残りの枠を更に参加数の多い郡市や運営郡市に割り当ててきた。団体戦では、運営郡市でのプラス枠が2枠になることが多く、3郡市が1つのブロックになった場合、どの郡市がその運営郡市枠を取るかなどの課題が出てくる可能性がある。

## 4 まとめ

本年度より始まったブロック制による熊本県中学校総合体育大会であるが、まだ試行錯誤の状態であり、改善すべき点も少なくない。本年度は設備の整った施設で大会を開催することができ、より良好な環境で競技することができた。会場の割り当ても会議で決定することができ競技間で会場をめぐるトラブル等もなかった。全競技のうち約2/3をブロックで運営し、残りを他郡市で運営したが、今後は、地域により施設の数や設備が異なるため、早めに準備に取りかかる必要がある。さらに、生徒数の減少に伴い、学校の統廃合はこれからも進んでいく。5つのブロックでスタートしたこの体制であるが、将来的には変わることも考えられる。また、運営費を参加者負担としたことについても見直しを持っておかなければならない。空調設備費という新たな課題も見つかり、様々な心配はあるが新たに始まったブロック制の利点を生かし、その年々の反省を改善して次年度につなげ、生徒達にとって最高の舞台で最高のパフォーマンスが発揮できるようこれからもより良い組織づくり、大会運営に努めていかなければならない。